

2026年4月

民俗 — No. 32

けんぱくものしりシート

もりぐちたり

森口多里コレクション



ケンくん ハクちゃん

みてみて。カラフルでいろいろな模様があって、とってもきれいだね！
これは何だろう？



これは、岩手県に伝わる「キリガシ」というお菓子です。
お米を材料とした餅菓子で、桃の節句（ひなまつり）に食べられてきました。岩手県出身の森口多里という民俗学



解説員

の先生が調査に行った家でもらったものなんですよ。

へえ～、お菓子を調べる学問があるなんて知らなかった！民俗学の調査ってどんなことをするんだろう？ もっと知りたいな！



民俗学ってなに？

キリガシのように、昔から受けつがれてきた食べ物や行事などの意味や由来を調べて記録する学問のこと。

森口多里ってどんなひと？

水沢町大町（今の奥州市）で生まれ、東京の大学やフランスで美術の研究をした。岩手県に戻ってからは、県内で見られる風習やお祭りなどを調査し、たくさんの資料を残した。



もりぐちたり
森口多里
(1892-1984)

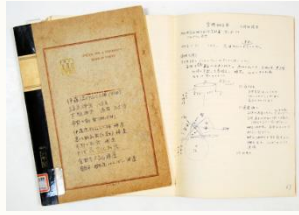


民俗学の調査の基本は「歩く」「見る」「聞く」と言われています。キリガシを例に、多里さんに調査のようすを教えてください！

多里さんの調査方法

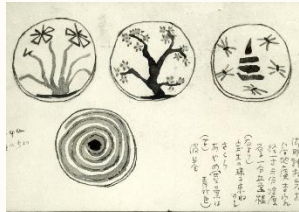
話を聞く

詳しい人に話を聞き、教えてもらったことをノートに書く。



スケッチする

スケッチを描くためによく観察することで、細かいところに気づくことができる。



調査対象: キリガシ 場所: 御明神村(今の雫石町)
調査した日: 1949(昭和24)年3月2日(旧暦)

実物を見る

実際の色や形、使われている材料の感触がわかる。



写真をとる

全体の様子や、踊りなどの動きがあるものの一瞬を記録できる。昔の写真は白黒だった。



当時は自家用車も少なかったから、徒歩やバスで取材することもあったなあ。ところで、君たちは「茶柱()が立つと縁起がいい」なんて聞いたことはないかい? こうした言い伝えも、民俗学で大切に調べていることなんだ。人から人へ話して伝えられてきたものが多いから、記録に残すことが重要なんだよ。



多里さん

いつか、ぼくたちの生活も民俗学の記録の一部になるのかも!



博物館では、多里さんが残した写真やスケッチなどの資料を「森口多里コレクション(右の写真)」として展示しています。岩手の先人たちの暮らしを思い浮かべながら、じっくりみてみてくださいね。



おおつくないかぐら はなまきし
大 償 神楽(花巻市)
1953(昭和28)年

森口多里コレクション



さかりちょうあさいち おおふなとし
盛 町 朝市(大船渡市)
1958(昭和33)年

引用・参考 小野公八(2011)『森口多里と郡司直衛』 / 上野和男 他(1974)『民俗調査ハンドブック』他

- 「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。
- 「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷 34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214

岩手県立博物館

検索

HPIにてバックナンバー公開中!

森口多里コレクション

2026年4月発行

■ 参考文献

- ・ 岩手県立博物館（2009）『岩手県立博物館収蔵資料目録第21集 民俗Ⅲ 森口コレクションⅠ』財団法人岩手県文化振興事業団
- ・ 岩手県立博物館（2012）『岩手県立博物館調査研究報告書第28冊 森口多里が遺した昭和の記憶 1 ～館蔵森口多里写真コレクションから～』公益財団法人岩手県文化振興事業団
- ・ 上野和男・高桑守史・福田アジオ・宮田登（編）（1974）『民俗調査ハンドブック』吉川弘文館
- ・ 上野和男・高桑守史・野村純一・福田アジオ・宮田登（編）（1978）『民俗研究ハンドブック』吉川弘文館
- ・ 小野公八（編）（2011）『森口多里と郡司直衛』佐々木書店